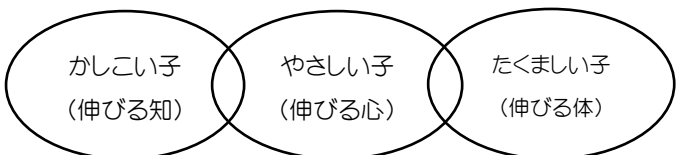


【学校教育目標】

【自我作古】

～今までの自分を大事にしながら、新しい自分をつくるために物事に挑戦する～

やさしく、かしこく、たくましく、力いっぱい生き抜く児童の育成



【本校の目指す教育】

○基礎基本の習得と基本的生活習慣の確立

保護者と連携し、生活習慣や学習習慣の確立を目指す

○協働的な学びの推進と授業力の向上

研究や研修を充実させ、学力向上に向け授業改善を図る

○道徳科学習の充実と特活・総合の実践による生活づくり

自尊感情と自主的な実践力を育成する

○組織として機能する体制の確立

学年学級と生徒指導・特別支援教育・教育相談の連携を強める

○育ちと学びを支える連携の強化

保幼小接続カリキュラムの実施

小中間の出前授業、授業公開

コミュニティスクールの運営を通じた成果や課題の共有

○OJTの推進による人材育成

目指す教師像と自己目標を持ち、互いに切磋琢磨する

（3つの約束）

「気持ちのよいあいさつ」「一生懸命の掃除」「靴そろえ」

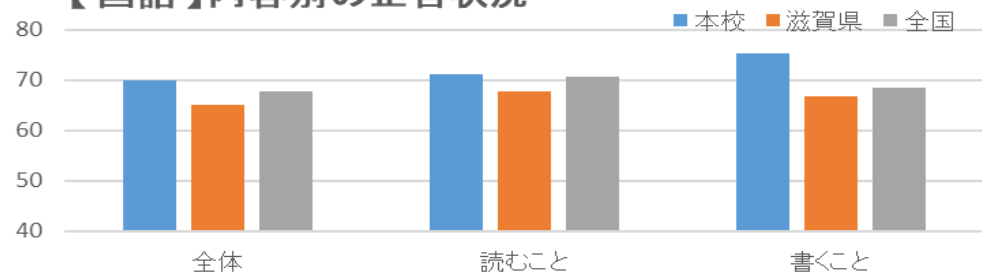
【瀬田南小の沿革と校章】



昭和51年、瀬田小学校から分離して創立。校章は瀬田の唐橋の「ぎぼし」と「南」、そして「瀬田川の波」からデザインされた。大津市南部に位置し、学区は瀬田川沿いに広がっている。瀬田の唐橋をはじめ、古くからの文化財や旧跡も多く、シジミ漁の町としても有名である。令和6年で開校49年目を迎え、児童数は738名となっている。（令和6年9月1日現在）

学習にかかわること(国語・算数)

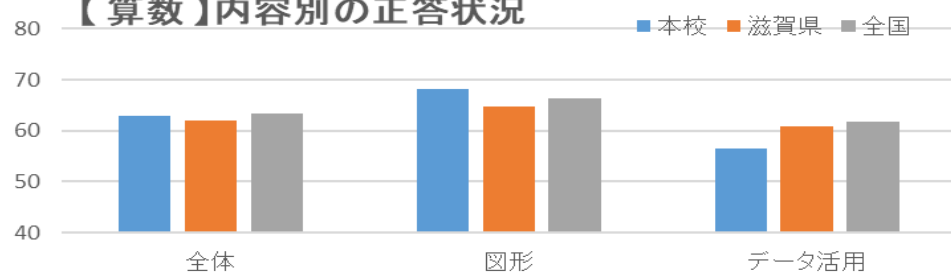
【国語】内容別の正答状況



【強み・弱み】

国語では、調査結果全体を通して、県の正答率を上回っている。文章の内容から目的に応じて必要な情報を見付けるといった「読むこと」の設問では、正答できる児童が多かった。また、「書くこと」では、課題の条件に合わせて、読み取った内容をもとに図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができた。

【算数】内容別の正答状況

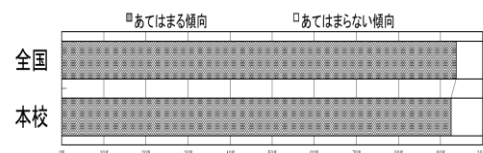


【強み・弱み】

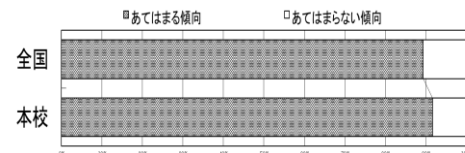
算数では、調査結果全体を通して、県の正答率と同程度である。図形の意味や性質について理解しているかどうかをみる「図形」領域においては、全国の正答率を上回っている。「データの活用」領域においては、分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察する設問で、県や全国の正答率を下回っている。

生活にかかわること(児童質問紙)

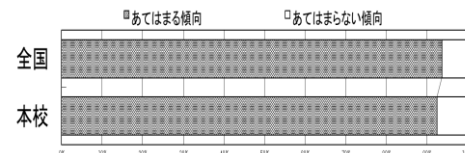
朝食を毎日食べている



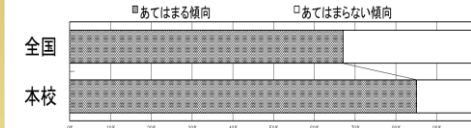
毎日同じくらいの時刻に起きている



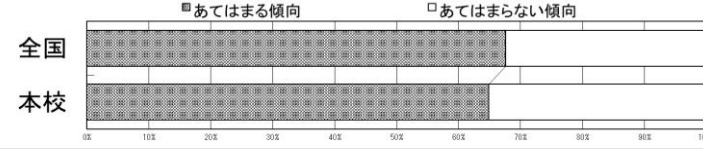
先生はよいところを認めてくれている



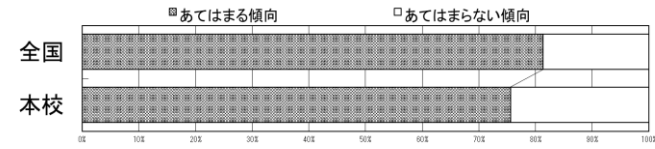
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる



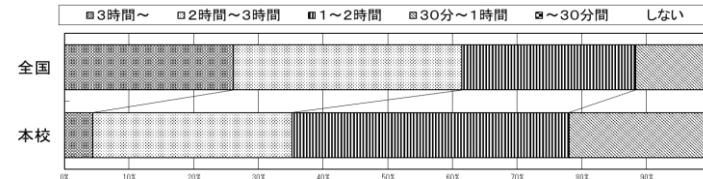
自分の考えを発表する機会では、うまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか(5年生までの授業)



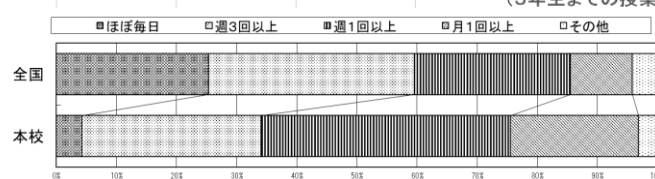
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる



家での勉強時間(平日一日あたり)



授業でのPC・タブレットなどICT機器の使用頻度(5年生までの授業)



【強み・弱み】 「朝食を毎日食べる」、「毎日同じ時刻に起きる」といった項目から、基本的生活が多くの家庭できちんと習慣化されていることがわかる。また、昨年度に続き「先生はよいところを認めてくれている」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」等の項目でも、高い割合であてはまると答えている。自尊感情や自己肯定感の高まりが継続し、安心した学校生活を送れるよう、引き続き家庭と協力しながら個に応じた丁寧な指導支援に努めたい。道徳で自分の考えを深めたり話し合ったりする項目や、自分の考えがうまく伝わるように工夫したり、総合的な学習の時間に自分で課題を立てて学習を進めていく活動の項目では、全国を下回る傾向にある。道徳教育や学級活動、総合的な学習の時間の充実を系統的に図る必要がある。授業でのICT機器の活用頻度や学習の基礎となる家庭での勉強時間においても全国を下回っている。学習においては、一層タブレット端末などのICT機器活用を工夫するなど、家庭においても自ら計画を立てて学習に臨む習慣をつけるための手立てを講じ、さらなる自尊感情の高まりや将来の夢、目標へとつなげていけるような積み上げを続けていく必要がある。また、「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えるか。」の項目では、全国をやや下回っている。今後も授業力の研鑽に努め、様々な考え方に触れさせることが大事である。

全国学力調査（2024年4月18日 6年生を対象に実施）

【調査結果から考える重点取組事項】

〈学校での授業改善〉

①自ら進んで学ぶ意欲を支援するICT機器の活用と学習環境づくり
③既習の基礎基本事項(きまりや公式)の定期的な確認

②各教科で学んだことを生かしたり、自ら立てた課題を基に探究的に調べたりする学習の展開
④道徳や学級会を中心とした話し合い活動の積み上げ

〈家庭での意識改善〉

学習の習慣化（宿題に取り組む＋自主学習による復習・予習、ICTの活用） 学習時間の目安(低学年:20分 中学年:40分 高学年:60分)

〈学校・家庭・地域の連携〉

読書活動の推進(図書室や学級文庫の充実、図書館や学校司書、電子図書館などの積極的な利用) 読み聞かせや学習支援など、積極的なボランティア参画